

# 特集

〈事例〉

## 「安全就業ABC」の順守と 委員会活動で安全意識が向上

公益社団法人  
山形市シルバー人材センター

(山形県)

山形市SCは、令和2年度の「安全就業優秀シルバー人材センター」として全シ協から表彰された。今回で2回目の受賞である。ここ数年の取り組みは、安全就業推進委員会と安全就業推進員が中心となり全会員が「安全就業ABC」を守ることを呼び掛けながら、安全パトロールの実施、安全就業標語の募集・入選作の発表などを通じ、安全意識の向上を促進。過去5年間で事故ゼロを達成した年もある。

山形市は、古くは最上氏の城下町として発展し、国指定史跡山城跡「霞城公園」がその歴史を今に伝えている。山寺や蔵王連峰、温泉、山形花笠まつりなどでも知られる。

山形市SCは、昭和五十五年に高齢者事業団として設立し、令和二年に設立四十周年を迎えた。令和二年度の会員数は千三百五人で、前年度より五十六人増加。会員の平均年齢は、七十二・五歳となっている。

### 安全就業ABC

山形市SCは、令和二年度の「安全就業優秀シルバー人材センター」として全シ協から表彰された。平

成十三年度に続いて、今回で二回目の受賞となる。

同センターでは安全就業の取り組みを行う際に、全会員が「安全就業ABC」を守ることを呼び掛けている。

ABCには、次のような意味を込めている。

A / 当たり前のことを  
B / ばかにしないで  
C / ちゃんとする

これは平成二十四年度、当時の安全就業推進委員長が策定した計画書に導入された言葉で、親しみやすいと評判を呼び、さまざまな場面で使われるようになった。

こうした独特の用語も生まれる中、会員の安全意識が向上し、現

在ではほとんどの会員が高い意識を持っている。

### 平成二十八年度に 事故ゼロを達成

「過去五年間の事故発生件数」を見ると、平成二十八年度は傷害・物損ともに事故ゼロを達成した。

五年間の合計を見ても、傷害事故が四件、物損事故が五件と少ない。重篤事故はなく、傷害事故は転落・転倒等による骨折が三件と、刈り払い機による切創が一件。物損事故は、草刈り作業の飛び石による事故が四件、清掃作業による壁の破損事故が一件であった。

安全就業は最優先の課題と位置付け、センター設立当初から組織

的な徹底に励んできた。

最近の活動に注目すると、会員一人一人が課題を心に刻み、安全に対する日常の意識高揚とその対策を講じるため、平成十六年度に安全対策基本計画を策定。五つの柱

①安全管理体制の充実②事故防止措置③会員の健康管理④安全教育の推進⑤安全意識の向上を立て、基本計画と実施計画を整備

した。以降、毎年この計画を基に具体的な安全就業対策を練り、推進を図っている。

### 安全就業推進委員会と安全就業推進員

具体的な安全就業対策は、理事三人と職群代表の会員七人で構成する安全就業推進委員会と、同委員会の活動を支える安全就業推進

員(事務局二人)が中心的な役割を担っている。

安全就業推進委員会は年五回の会議を開催して事故ゼロを目指し、会員の安全就業の確保と安全意識を高揚するため、啓発活動に努めている。

主な活動は、次の通りである。

#### ●安全パトロール

全期間を通し必要に応じて安全パトロールを実施。「安全就業基準」

「作業別安全就業基準」の順守の徹底を促す。このほか、七月の安全・適正就業強化月間には、屋外作業を中心に熱中症予防の周知や安全保護具着用の徹底、「緊急連絡カード」携帯の徹底を図るための安全パトロールを三日間で十か所前後実施する。

十か所前後実施する。

具体的には、安全就業推進委員と安全就業推進員の二、三人で現場を訪問し、作業別や熱中症対策についてそれぞれ作成したチェック表を基に現場の状況を確認。安全保護具を着用していないなどの問題があればその場で指導するが、ここ数年はほとんどの現場がしっかりと安全を確保した状態で就業している。

抜き打ちの不定期パトロールは、発注者だけに事前連絡して行うが、こちらも指導を要するような状況はほぼ見られることがなく、「この先も注意してください」などと会員と言葉を交わして、安全意識のさらなる高揚に努めている。

「緊急連絡カード」は、入会時に会員証と共に作成するもので、名刺大のカードに所属地区、会員およびセンターの緊急連絡先を記載。万が一の事態に備え、就業時に携帯することを全体会員に徹底している。



安全パトロールでは、安全就業推進委員と安全就業推進員がセンターの腕章を着けて現場を訪ねる。七月の安全・適正就業強化月間は屋外作業(写真上)、十一月に行う抜き打ちの不定期パトロールでは屋内の施設管理作業(写真下)などを中心の実施

## ●研修会の開催

特に事故が多いと思われる職群班（剪定・除草）について、繁忙期前に全職員に対して安全就業の研修会を実施。「安全就業基準」「作業別安全就業基準」の内容確認、安全保護具の着用と飛び石防止ネット使用の周知などを徹底する。

## ●安全就業標語の募集、表彰

安全意識の向上を目的として、安全・適正就業強化月間に会員から安全就業標語を募集。選考委員会で選考し、八月に入選作品の発表と表彰式を行っている。毎年百人前後から二百編を超える作品が集まるが、令和二年度はコロナ禍のため多くの会員活動を中止したことが影響したのか、六十八人から百七十五編の応募にとどまった。この取り組みは一人でも多くの会員に安全就業を意識してもらうことが大きな目的で、標語募集に当たっては毎年、地区の世話人や職群班に協力を呼び掛け、応募者数の拡大に努めている。入選作(最



令和元年度の安全就業標語入選発表会。入選作に選ばれ、表彰を受けた会員たち



令和元年度の安全講習会。山形警察署交通課から講師を招いて、高齢者の交通安全について学んだ(写真上)。写真下は、「体験型交通安全教室」。交通安全危険予測シミュレーターによる運転体験を行った



優秀賞、優秀賞、佳作)は、会報「シルバーやまがた」に掲載し、

全会員に周知。また、入選作を含む何編かを山形県SC連合会(以下、連合会)で募集する安全標語に推薦している。

## ●安全講習会の開催

安全就業標語の入選発表会と同じ日に、安全講習会を開催する。テーマは安全就業、健康管理、交通安全の中から、毎年一つを決めている。

令和元年度は、山形警察署交通課から講師を招き、「高齢者の交通安全について」と題した講習会を

実施。百六十四人の会員が参加し、事故発生が多い季節や時間帯、注意点などに耳を傾けた。また、「体験型交通安全教室」を同時開催し、交通安全危険予測シミュレーターによる運転体験を行った。

令和二年度はコロナ禍のため、安全就業標語の入選作品の発表と表彰式、安全講習会は中止した。

## ●「重大事故速報」を発行

事故発生時には事故要因調査を行い、「重大事故速報」を職群班ごとに発行して注意喚起を行い、再発防止に努める。

## ●その他の対策

新入会員には、入会時に「緊急連絡カード」と「安全就業ハンドブック」を配布する。「安全就業推進委員会だより」を随時発行し、事故防止、熱中症対策などを周知する。

安全就業推進委員の資質向上のため、連合会主催の安全就業推進大会や研修会に参加する。

●健康管理に関する取り組み

会員自身による健康管理の啓発と、市の健康診断の受診を推奨。

●新型コロナウイルスの影響

令和二年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に努め、会員の健康と安全を第一に考えて、安全講習会など多くの会員活動を中止した。このため、「安全就業推進委員会だより」などで注意を喚起。日常の感染防止対策と就業時における検温やだるさなどの確認（セルフチェック）の実施を会員に徹底している。

受賞の喜びと今後に向けて

事務局の平田悦一さんは、黒田芳広常務理事兼事務局長と共に安全就業推進員を務めている。

令和二年度の全シ協表彰について、平田さんは「代々の安全就業推進委員の活動と、会員が行った

努力の一つ一つの結果です。特に、平成二十八年度に事故ゼロを達成できたことが大きかったと思えます」と謙虚に喜びを表した。

しかし、受賞後の令和二年度は、自転車や自家用車で就業先へ向かう途中の交通事故が三件、除雪作業中に転倒する事故が一件発生。作業中の物損事故も二件発生した。

「重く受け止めています。コロナ禍のため令和三年度の活動は開催が未定のもありますが、『安全就業推進委員会だより』などで注意を促していきます。また、労働者派遣事業の受注が増えて、職種も多様になっていくことから、新たに受けた作業などについて見識を深めながら、より一層気を引き締めて取り組みを進めたいと思います」と今後を語った。

労働者派遣事業の衛生委員会を設置

労働者派遣事業の拡大に伴い、常時同事業に従事する会員が五十

人以上になったことから、令和二年度に衛生委員会を設置した。黒田事務局長が委員長を務め、産業界と衛生管理者が各一人、会員代表二人の計五人の構成だ。

黒田事務局長は「令和二年度の実績で、契約金額全体の約二割が労働者派遣事業となっております。特に伸びているのは、スーパーマーケットでの商品陳列などの作業です。受注全体として安全を憂慮するような仕事は受けていませんが、今後も安全を第一に考えていきます。令和二年度の衛生委員会は三回開催しました。議題は派遣会員の健康管理が主ですが、事務局職員のストレッチも実施しました」と同委員会の活動について話す。将来的には、安全就業推進委員会と統合し、安全就業の確保、就業途上の交通安全、会員の健康管理について総合的に取り組んでいきたいと考えている。

黒田事務局長は今後の安全就業の確保について、「事故ゼロを目指

して改めて基本を確認し、忠実に実行していくことに努めます。会員も皆、注意を払っていただきます。守るべきことを忘れずに行うために、繰り返し伝えていきたい」と語った。

(増山美智子)

事業運営状況 (平成27年度～令和元年度)

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) 人 (人日)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女	計						
平成27	763	226	989	1.2	784 (141,906)	79.3	3,239	454,719	16.5/83.5
28	808	252	1,060	1.2	829 (147,231)	78.2	3,482	483,357	15.7/84.3
29	820	266	1,086	1.2	822 (154,952)	75.7	3,447	526,187	14.8/85.2
30	870	290	1,160	1.3	969 (131,214)	83.5	3,456	524,833	14.1/85.9
令和元	906	343	1,249	1.4	1,027 (137,865)	82.2	3,559	554,289	13.2/86.8

※受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象